

<http://www.kikokusha-center.or.jp>

この紙版『同声・同気』は、随時発行の web 版『同声・同気』(当センター・ホームページ <http://www.kikokusha-center.or.jp> に掲載)から、特に中国・サハリン帰国者に関係した記事を抜粋して支援者の方々にお届けしています。今号は web 版(2014年12月号、2015年2月号、3月号)でご紹介した記事をまとめています。



目次

地域情報ア・ラ・カルト

- 群馬「常楽園デイサービス」を訪ねて 2
- 京都「夕陽紅(シーヤンホン)の会」 3

行政・施策

- 中国残留孤児援護基金から：訪問介護ステーション 寿星(じゅせい) オープン 4
- 〈平成27年度〉介護関連資格取得援助事業のご案内 4

研修会報告

- 外国につながる子どもの高校進学ガイダンス主催者交流会 2015 5
- 年少者の日本語教育の今とこれから 「特別の教育課程」の現状と課題 5

とん・とんインフォメーション

- 近刊紹介『日本国最後の帰還兵 深谷義治とその家族』 6
- 「介護に係る研修会」用資料についてのお知らせ(追加情報) 7
- 中国語の対応が可能な介護事業所一覧 7
- 所沢センターHP「同声・同気」の新コーナーについて 8
- 「医療通訳育成カリキュラムとテキスト」・「外国人向け多言語説明資料」 9
- マルチメディア DAISY 図書とは? 9
- ニュース記事から 2014.9.1-2015.3.1 10

遠隔学習インフォメーション

- 2014年度スクーリング講師研修会報告：所沢センター
「これでいいの？ 私のスクーリング・スクーリングの工夫や
悩みをシェアしよう」 11
- H27年度上期「遠隔学習課程(通信教育)」募集要項完成！ 11
- おしゃべり話題コース・日本語能力試験N2 受験準備コース紹介 11
- N2コース受講者から合格報告！ 12



張 雨均さんの切り絵

本紙4月号、10月号(紙版)以外の web 版は、HP 掲載時に、その内容をメールにてお知らせできます。ご希望の方は、
①お名前(団体窓口者の方は団体名も)と②ご自身のメールアドレスをお教えてください。
宛先:tongtong@kikokusha-center.or.jp お問い合わせは 電話 04-2993-1660 FAX 04-2991-1689

「常楽園デイサービス」を訪ねて



2014年8月4日、群馬県前橋市に帰国者二世が立ち上げた施設「常楽園デイサービス」を訪問した。

●施設立ち上げのきっかけ

婦人二世である原静子さんは1年前（2013年12月）高齢で体の悪くなった母親（帰国者）の世話をするためご主人とともに来日し、群馬県に来了。二人とも以前日本で20年ほど暮らしていたこともあり、日本語にはさほど問題はなかった。母親の住む団地には一人暮らしの帰国者が多く暮らしており、高齢の帰国者一世たちは、外へ行っても言葉が通じないし、話しかけてくれる人もいない。体も悪く生活をするのにも大変だが、二世である子供たちは仕事で忙しいため、普段は家でじっと我慢しているしかない。それなら自分たちでデイサービスを立ち上げようと考えた。静子さんは中国で保育士をしており、託児所を経営していたこともあり、施設経営のノウハウもあった。医大出身のご主人が高崎の有料老人ホームで半年働いて経験を積み、瞬く間にデイサービス「常楽園」立ち上げにこぎつけることができた。

開設に当たって、たまたま市役所に行ったときに「創業塾」というのががあると聞いて、すぐに参加した。1か月間週1回の勉強会があり、そこでは事業を始めるのに必要なことをいろいろ教えてくれた。開業の仕方、融資の受け方、税金についてなどいろいろ教わり、その後は中小企業相談会で何度かアドバイスを受け、開業にこぎつけたとのこと。

現在は、施設長であるご主人、管理者の静子さん、そして日本人スタッフ1名で運営しているが、利用者の中にもボランティアで手伝っ

ていない人が何人かいるようだ。

かなか理解されず、開業当初は利用者がなかなか集まらなかったが、原さんの母親が住んでいる団地には帰国者が集住しており、そこからの口コミで徐々に利用者の人数が増えていった。ほとんどが帰国者だが、日本で暮らしている中国の人も一人来ている。日本人は受け入れていないとのこと。

●1日の流れ、活動

現在の施設利用者は13名。要支援、要介護度によって週1～4回と利用回数は様々。1日10名まで受入れ可能で、常時7～8名ほどが利用しているとのことだが、この日の利用者は5名だった。脳梗塞の後遺症のある人や認知症の人

も利用しているようだ。

利用者を迎えに行き、施設に到着するのは9時、それから帰宅まで盛りだくさんの活動が組まれている。

バイタルチェック（血圧、脈拍、体温測定）／脳カトレニング（絵を描く、間違いさがし等）／インターネットで中国の健康番組を見る／気功、ヤンガー（中国の踊り）／ゲーム（麻雀、トランプ、将棋、この間一人ずつの入浴等）／口腔体操／昼食／昼寝、ヨガの音楽をかけての瞑想／体操／ゲーム（風船バレー、手遊び、輪投げ、ボーリング、ボール蹴り等）／カラオケ／中国の連続ドラマ鑑賞／書道、折り紙、切り紙等／機能訓練、マッサージ、足湯等／合唱 そして16時半送迎。

このように活動を多く組むことで、利用者同士がお互いの不満から口げんかになったりすることを避ける意味があるらしい。気分を切り替えることでストレスがたまらないように工夫しているとのこと。これだけ活動すれば、確かに夜はよく眠れることだろう。

この日は小学生の息子さんがいて、ボーリングゲームのピン並べなどを手伝ったり一緒にゲームに参加したりしていた。小さな子供がいることも一世にとっては嬉しいことなのだろうと思う。

●料理について

食事の料金が低いと利用者が敬遠するとのこと、一般の施設よりはかなり安い値段でやっている。庭で野菜を少しばかり作っていることもあり、できるだけ安く中国の家庭料理を提供したいとの思いがあるようだ。メニューには中



〈 中国のインターネット番組でくつろぐ利用者の方々 〉

●入所者の募集と利用状況

介護サービスというのが中国帰国者にはな

国のクックパッド（インターネットの料理レシピ）なども参考にしているとのこと。

以前は感情の起伏が激しかった人も、ここに来て落ち着いて自分をコントロールできるようになった人が多いそうだ。中国にいた時のような環境で、仲間とともに気兼ねなく過ごせるところがいいのだろう。

施設長であるご主人は、利用者がここで楽しく過ごせるように活動（ゲーム、カラオケ等）を盛り上げつつ、利用者一人一人に気を配っているのがよく感じられた。（T）

〒379-2131 群馬県前橋市西善町 599-1
TEL : 027-266-0567



京都「夕陽紅（シーヤンホン）の会」

○会の立ち上げと活動

中国帰国者の二世・三世らにより「夕陽紅の会」が発足したのは2011年。京都の大学が実施した外国人高齢者と外国文化の背景を持つ人を対象とした生活調査がきっかけとなり、調査員として参加した二世たちが、一世世代の厳しい老後の生活を自分たちの世代で何とかできないかと会を立ち上げた。

介護予防教室をはじめ、手芸、将棋、マージャン、書道などの趣味講座、地域交流イベントの開催、そして二世三世対象の介護ヘルパー資格取得支援など、一世支援のための様々な活動に取り組んでいる。

○活動見学：「介護予防講座」2014年10月19日（日）

この日の参加者は30名ほどで、中には所沢センター修了生や遠隔学習課程受講者も何人か来ていた。参加者をロコミで増やして、知り合いに誘われて来た人にも次回からは案内ハガキを毎月出すようにしているとのこと。ボランティアの方々には10数名。帰国者の同年代から高校生まで幅広い。介護・運動機能リハビリの専門家や、介護士、アコーディオンで歌の伴奏をする人、今回初参加という人も。このように、いろいろな人が集まって会を盛り上げているのは本当に頼もしいことだと思う。

《当日の活動プログラム》（13:00～16:00）

受付・血圧・体温を測定／夕陽紅健康芸術団の踊り／健康講座／健康体操／お誕生会／皆で歌う／集団レクリエーション／利用者の感想・意見を聞く

- ・踊り…そろいの綺麗な衣装で華やかに踊っていた。参加者も大喜び。

- ・講座…「インフルエンザの予防接種」と「台風対策」についての解説。自治体からの通知など届いていても読まない人が多いため、重要なものを選んで解説するようにしているとのこと。この年（2014）8月には京都市内に大雨・洪水警報が発表され、場所によっては大きな被害を受けていた。

- ・体操…立って行う体力派(?)のグループと、椅子に座って行う軽めの体操グループの2組に分かれて行った。左右の手で別々の動きをするものや、踏み台昇降など、脳トレや日常生活機能を維持するための運動に、笑顔で取り組んでいた。

- ・お誕生会…10～12月の誕生日の人に額縁入りのポートレート写真が贈呈される。毎年やっているらしく、「去年の写真を見れば今年の方が若いとわかっていいよね!」と粋なコメントも。

- ・歌…アコーディオンの伴奏で、歌詞カードを見ながら日本語で歌う。

- ・レクリエーション…〈障害物競歩とクイズ〉という組合せ。体と頭を同時に働かせることは交通事故に遭わないための訓練だとのこと。若い人には難しめの課題をあて、全員が当たるまでやっていた。

プログラムは全体としてゆったりと進められていたが、進行役が圧倒的なパワーで参加者を引っ張っていた。参加者をきちんと“大人扱い”しつつ、盛り上げ方もとても上手だった。

○今後の活動

11月には初の「外出」活動を予定している。もともと前年にやりたかったのだが悪天候やボランティア不足で実現しなかった。家に閉じこもりがちなのが多いので何とか外に連れ出したい。

地域情報ア・ラ・カルト

できるだけ乗り換えなしに行ける場所を探していくとのこと。(⇒後日二条城見学になったと伺った。)

現在はボランティアをA(偶数月担当)、B(奇数月担当)の2チームに分けていて、それぞれのチームのボランティア2名に会の中心メンバー1人が加わって活動の計画を立てている。今後はボランティア一人一人が力をつけていって、現中心メンバーの3人がいなくてもチームで企

画から実施までできるようになってほしいと、今後の在り方についても話を伺うことが出来た。また、将来的には配食サービスやデイサービス施設も考えているとのこと。高齢化の進む帰国者一世世代のために、一日でも早く計画が実現されることを期待したい。(T)

夕陽紅(シーヤンホン)の会活動報告はこちら
<http://xiyanghong.blog.fc2.com/>



〈自治体のお知らせ等を示して説明〉



〈健康体操(座位グループ)〉



〈集団レクリエーション〉

行政・施策

★援護基金から

公益財団法人 中国残留孤児援護基金

訪問介護ステーション〈寿星(じゅせい)〉オープン

同法人は、高齢化する中国からの帰国者の介護ケアニーズに対応するため、中国語が話せる訪問介護員を派遣する事業所〈寿星〉を平成27年2月1日に開設しました。対象地域は中野区・練馬区・杉並区の3区ですが、中国帰国者の場合にはできるだけ都内全域のニーズに対応していく予定とのこと。

営業時間：平日 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(土、日、祝、年末年始は休み)

住所：東京都中野区弥生町5-5-3 中野富士見スカイマンション102

電話：03-6382-7125 ファクス：03-6382-7202

E-mail：jusei@engokikin.or.jp

HP：http://www.engokikin.or.jp/tabid/117/Default.aspx



〈平成27年度〉介護関連資格取得援助事業のご案内

中国帰国者、二世・三世並びにその配偶者が介護関連資格の取得を目指すために受講する介護職員初任者研修課程養成講座等の受講料の一部を援助しています。

平成27年度は援助額が8割(上限8万円)に増額し、対象資格に福祉住環境コーディネータも加わりました。なお、ブロック別定数制となりました。詳しくはホームページの「援助のしおり」をご覧ください。

HP：http://www.engokikin.or.jp/business/tabid/59/Default.aspx

お問い合わせ：03-3501-1050

外国につながる子どもの高校進学ガイダンス主催者交流会 2015

2015年1月11日(日)、北浦和のカルタスホールで上記交流会が行われました。

主催者交流会は14回目となり、今回は栃木、群馬、茨城、千葉、東京、神奈川、静岡、山梨、埼玉、長野から70名を超える参加がありました。

(1) 全体会

- ①各県からの報告：外国につながる子どもの県別高校入試の現状と課題
- ②特別報告：熊谷市の調理師専門学校の外国人入学拒否問題について

(2) 分科会

- A：外国につながる生徒の高校進学の現状について
 - ①「外国籍県民かながわ会議の提言」、
 - ②「外国人特別選抜の問題点」
- B：外国につながる生徒の高校進学と在学中の支援について
 - ①「千葉県の現状と課題」、
 - ②「多言語による生徒の相談会活動・定時制高校での試み」、
 - ③「高校生向けのキャリアガイダンスの実施報告」

分科会Bの①について白谷氏(房総日本語ボランティアネットワーク)の報告を簡単に紹介したいと思います。

●千葉県における「日本語を母語としない生徒」の高校進学と高校での指導に関する現状と課題

日本語の生活言語は習得に2年、学習言語は習得に5～9年かかるといわれている。そのため、日本語力がまだ十分でない生徒を対象に特別選抜が行われているが、これには二つの考え方がある。一つは「日本語が十分でない生徒も入学させ、入学後も学校の責任で日本語を指導

する」(神奈川県、東京都等)、もう一つは「入学後、(その高校の)授業についていける日本語力を持つ者のみを合格させる」(千葉県、埼玉県等)という考え方である。

前者では「定員内不合格」は出さないことになっているが、後者は募集定員が定められておらず「おおよそ〇名以内」となっており、学校が「入学後、その学校の授業についていける日本語力を持たない」と判断すると合格者はゼロでもかまわないということになる。この考え方はその後の学校での対応(日本語指導、補習等)や教育委員会の支援体制(教員の加配、ボランティアの交通費支給等)にも影響している。

また、「日本語を母語としない生徒」で卒業までたどり着いた生徒は、神奈川県では90%、千葉県では59.7%であり、千葉県の退学率が30%も高くなっている。

このような現状を少しでも改善しようと、房総日本語ボランティアネットワークを含めた15団体は、千葉県教育委員会に対し、2014年5月、○東京都、神奈川県、埼玉県のように「外国人の特別入学者募集人員」をはっきりさせてほしい

○東京都、神奈川県のように「募集人員」に相当する「入学許可候補者」数を確保するよう、「外国人の特別入学者」選抜高等学校を指導してほしい、との要望書を提出している。

※埼玉県は「募集人員」をはっきりしているが「定員内不合格者」を出している。

進学ガイダンス主催者交流会 HP

<http://www.tim.hi-ho.ne.jp/meri-/sg/index.htm>
(T)



「年少者日本語教育の今とこれから」「特別の教育課程」の現状と課題

日本語教育学会テーマ別研究会多文化共生社会における日本語教育研究会 2014年度研究会

児童生徒のための日本語指導は、従来様々な形で実施されてきましたが、2014年度より、文部科学省の施策として、小・中学校での取り出

し形式の日本語指導が「特別の教育課程」として認められることになりました(*)。

このような大きな変化を受けて、上記の研究が2月14日(土)、大東文化大学で開催されました。齋藤ひろみ氏(東京学芸大学)による文科省の施策の具体的な内容についての講演の後、二つの地域からの事例発表がありました。

講演では、今回の施策は、児童生徒の実態に応じて柔軟な対応を可能にする「踏み込んだ政策である」ということが指摘されました(以下、一部を紹介します)。

- ・「特別の教育課程」として認定=公式な学習記録として「学習要録」に記載できる。
- ・指導者は、教員免許を有する教員が、児童生徒の実態把握、指導計画、実施、評価を行う。また、必要に応じて指導を補助する者を配置する。
- ・実施対象の児童生徒を「日本語に通じない児童または生徒」とし、国籍や滞日年数等で限定しない。
- ・指導内容には、「日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにする」⇒日本語指導の内容を、ことば(日

本語)だけに限定しない。教科指導も指導内容に含める。

- ・児童生徒の在籍学年について、「年齢にとらわれることなく、必要に応じて相当の下学年に在籍させることについても配慮する」。

この制度が始まってから間もなく1年。学校現場での運用はまだこれからというのが実情のようですが、事例発表では、取り出しの日本語教室での読書支援の報告を聞くこともできました。子どもたちの学びを支援するために、教師や支援者が新制度をいかに有効かつ柔軟に運用することができるか。今後も実践の発信と共有が期待されます。

*参考資料:

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等について【日本語指導が必要な児童生徒を対象とした「特別の教育課程」の編成・実施】」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm)

とん・とんインフォメーション

近刊紹介 『日本国最後の帰還兵 深谷義治とその家族』

(深谷敏雄著、集英社刊、1800円(税抜))

各処で評判になっているのでご存じの方も多しとは思いますが、帰国邦人の二世の手になる日中関係史の隠れた一面を表した一書です。

本書の主人公である深谷義治氏は元憲兵で、戦中、中国でスパイ工作に従事していました。戦後も「任務続行」の特命を受け、中国人として上海に潜伏し続けましたが、1958年中国当局に逮捕されます。この間、戦中に工作上の必要で結婚した上海出身の妻との間に3男1女をもうけて家庭を築いていました。その後20年以上にわたる投獄の日々を経、恩赦を得て1978年に一家で日本に帰国します。

本書は、死んでしまっても不思議はないほどの過酷な獄中生活と、その間「反革命分子」の家族が堪え忍ばざるを得なかった極貧の日々、そして夢にまで見た祖国日本でも続いた苦労を著者の手記に義治氏の獄中記を交えて描き出しています。一家の味わった辛苦は想像を絶するものでしたが、それを支えた義治氏の使命感そして妻・子が夫・父に捧げた家族愛もまたあり得

ない深さでした。

本書冒頭に帰国直後の一家談笑の写真が挿入されていますが、その印象が読後には全く違った重みをもって現れます。

一口に中国帰国者といっても生育歴も戦中戦後の立場も、背景事情は様々です。本書が今まで日の当たってこなかったそれらの人たちの生きてきた歴史の「語り直し」のきっかけにもなることを願います。何語でもいいから、当事者の記憶をたどれるうちに記録を残してほしいと、戦後70周年となる今年に本書が世に出た意義を改めて思いました。(an)



自治体の皆様／帰国者支援の皆様へ

「介護に係る研修会」用資料についてのお知らせ（追加情報）

NL 第 58 号でご紹介した「介護に係る研修会」用資料に、新たに作成した資料が加わりました。

| | タイトル | 内容 | 日本語 | 中国語 | 日中対訳 | ロシア語 | 日露対訳 |
|--------|-----------------------------------|--|-----|-----|------|------|------|
| (1)⑧ | 『認知症ってどういう病気？—認知症の基礎知識—』22 頁 | 身近な病気認知症についての、原因と症状、接し方、早期発見の重要性等基礎知識をまとめたパンフレット。 | / | / | ● | / | ● |
| (1)⑨ | 『認知症ってどういう病気？—認知症の基礎知識—』（簡略版）13 頁 | ⑧を帰国者とその家族向けに簡潔にしたもの。帰国者にこれを示しながら説明するとき使用。 | / | ● | / | ● | / |
| (1)⑩ | ⑧の別冊付録『認知症を理解する』50 頁 | 『こんなときどうする？チャートでわかる認知症介護』（鎌田ケイ子著）を中／露に翻訳したもの。認知症の人を介護する家族のために書かれた本だが、支援者が、認知症についてより深く理解するのに格好の読み物となっている。 | / | ● | / | ● | / |
| (2)⑤ | 『帰国者事情・サハリン文化事情あれこれ』8 頁 | サハリン帰国者事情、帰国者の思い、サハリンの生活習慣文化、「介護」観などについてまとめたパンフレット。 | ● | / | / | ● | / |
| (2)④iv | 介護施設での行事等ポスター16 枚 | 誕生日や季節の行事等介護施設のイベント案内用らし。イラスト付きの中国語による案内。 | / | / | ● | / | ● |

※ (1) ⑩の日本語版は市販本です。当センターで貸し出しもできます。
 ※58 号で紹介した資料にも、中国語/ロシア語訳の加わったものがあります。最新情報はホームページでご確認ください。
<http://www.kikokusha-center.or.jp/bunka/siryou/kaigosiryou.html>
 資料についてのお問い合わせは、tongtong@kikokusha-center.or.jp（田中）まで



中国語の対応が可能な介護事業所一覧

厚労省では、中国語による介護サービスの提供等を希望される中国残留邦人等の方々への情報提供のため、中国語の対応が可能な介護事業所をまとめました。全国 20 都道府県 118 件の情報を載せています。（平成 26 年 12 月 16 日時点）

※北海道(2) 宮城(3) 山形(15) 茨城(1) 群馬(1) 埼玉(10) 千葉(6) 東京(16) 神奈川(8) 富山(2) 山梨(5) 長野(11) 京都(6) 大阪(20) 兵庫(5) 島根(1) 岡山(1) 広島(1) 熊本(1) 大分(3)

【厚労省 中国語の対応が可能な介護事業所 [検索](#)】

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12100000-Shakaiengokyoku-Engo/0000070470.pdf>

○問い合わせ先：中国残留邦人等支援室地域支援係
 (03-5253-1111 (内線 3463・3468))



〈所沢センターHP「同声・同気」の新コーナーについて〉

所沢センターは、帰国者の日本語学習について、来日直後、施設入所の形で行う予備的集中研修と、定着後、「いつからでもどこにいても」学習できる「日本語遠隔学習課程（通信教育）」の実施という形で、帰国者の生涯学習としての日本語学習を継続的に支援し続けています。

この学習支援について、今回、HP トップ画面に「所沢センターの帰国者への学習支援」コーナーとして新たにまとめました。「来日直後の初期研修」、「日本語通信教育」、「中・長期的遠隔学習支援」、「コミュニケーション力評価」という4つの柱からなっています。

「来日直後の初期研修」では、帰国者の方々が定着地の生活になるべくスムーズに入っていけるように「日本での生活への自信と意欲、それを裏付ける基礎知識、基礎技能を身に付ける」ことを目標にした、6ヶ月研修の学習カリキュラムや学習プログラムを紹介しています。

「日本語通信教育」では、全国に定住する帰国者を対象に実施されている「日本語遠隔学習課程」の各コースを紹介しています。現在も、定着後の帰国者のライフステージに応じた多様な日本語ニーズに答えられるよう、新しい教材

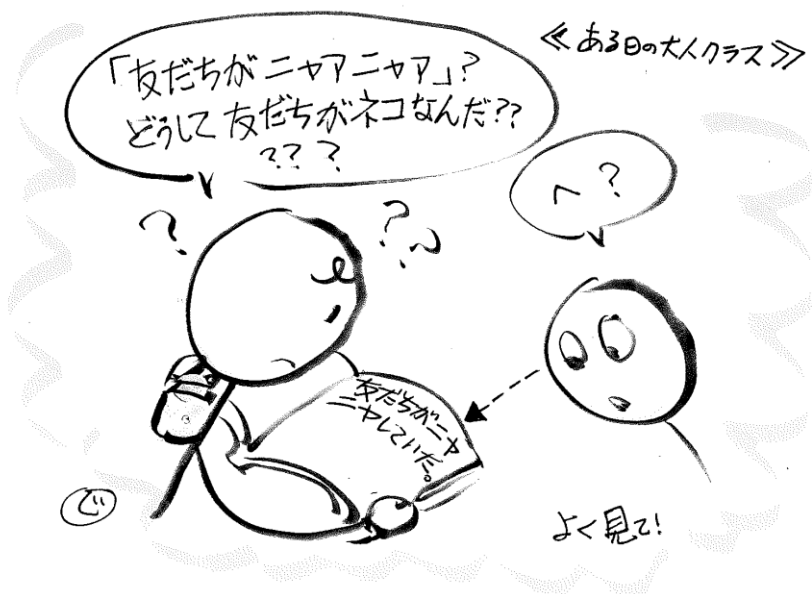
を開発し、コースのメニュー化を図っています。

また、「中・長期的遠隔学習支援」では、自学自習が中心となる「日本語遠隔学習課程」を居住地域でサポートする「スクーリング」を紹介しています。生活者としての帰国者は、各世代の事情を抱えながら生活の傍ら日本語を学んでいくことになります。そのような学習の「伴走者」としての「スクーリング講師」の役割についてまとめています。

そして、センターで開発した「コミュニケーション力評価」の方法について紹介しています。ここでいう「コミュニケーション力」とは、雑談場面等での会話力を指します。この評価は、日本語の言語形式の正しさのみを見るのではなく、「伝える力」「聞く力」＝「やりとりする力」を評価の観点としています。

新コンテンツを追加するにあたり、トップ画面もレイアウトを少し変えました。少しすっきりしたのではないかと思います。ご興味のある方は、是非一度訪れてみてください。

<http://www.kikokusha-center.or.jp/>



「医療通訳育成カリキュラムとテキスト」と 「外国人向け多言語説明資料」がダウンロードできます！

日本医療教育財団は、厚生労働省 平成 25 年度医療施設運営費等補助金「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の補助金により、上記の資料を作成しました。

以下、日本医療教育財団ホームページからの引用です。

「医療通訳育成カリキュラムとテキスト」は、医療に関する一定のレベル以上の知識および通訳技術を修得し、医療通訳者として機能する専門職を育成するために行うべき研修や指導要領等についてまとめ、作成をいたしました。

一方、「外国人向け多言語説明資料」は、国内の医療機関における外国人患者受入れの院内体制整備の一環として、院内で外国人患者の対応時に必要となる、問診票、説明文書、コミュニケーションツール等の標準化および翻訳を行いました。

下記の資料は厚労省のホームページにて公開されています。

「医療通訳育成カリキュラム・テキスト」

編集：多文化共生センターきょうと、全 508 頁

※巻末の「単語集」には医療に関する用語が日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語でまとめられています。

◆厚生労働省 HP

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056944.html>

「外国人向け多言語説明資料」

日、英、中、ポルトガル語、スペイン語版

【全般】【入院部門】【会計部門】【問診票】

【手術・検査部門】などのカテゴリ、

全 48 項目を網羅

◆厚生労働省 HP

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056789.html>



マルチメディア DAISY 図書とは？

DAISY ということばを聞いたことがあるという方、どのくらいいらっしゃるでしょうか。

DAISY（アクセシブルな情報システム：Digital Accessible Information System）というのは、視覚障害だけではなく、学習障害、知的障害等、様々な障害に対応する情報技術として日本障害者リハビリテーション協会が普及を進めている国際標準規格です。デイジー図書というのは、印刷物を読むことが困難な人のための図書の種類で、音声読み上げだけでなく、テキスト・画像・映像などを連動させて表示できるものです。つまり、読むのが苦手な人のためのお助けツールで、音声を聞きながら、今どこを読んでいるかを確認することができる便利なものです。外国にルーツをもつ子どもたちにとっても、有用なツールになりそうです。例えば、

デイジー教科書というのは、テキストと音声セットになった教科書で、パソコンやタブレット（iPhone でも）に入れて使います。自分で音読する前に、テキストを確認しながら繰り返し音声を聞くことが出来るので、まだ文字と音声の結びつきが弱い場合や、読めない漢字がたくさんある場合には、この教科書を使うことで、かなり負担が軽減されるのではないのでしょうか。以下の日本障害者リハビリテーション協会のサイトに、デイジー教科書の申請方法、使い方、活用事例などが詳しく載っていて参考になります。音読嫌いのお子さんが、パソコンを使うことでハードルが下がって、音読に取り組めるようになった事例なども紹介されています。

<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>

またデージーで絵本等を読むこともできます。著作権法との絡みで、提供制限がありますが、絵とテキストを見ながら音声を聞くことができます。同じく以下のページで、デージー図書の一覧を見ることができます。<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/index.html>

マルチメディア DAISY 図書は、ソフトさえあれば自分で作ることができるので、教科書や絵本のデージー図書を各地のボランティア団体が作っています。(著作権保護のための制限があります。詳細は日本障害者リハビリテーション協会のHPを参照のこと) 大きいところでは、

「日本ライトハウス情報文化センター
<http://www.iccb.jp/mmd/mmdownload/>」

「伊藤忠財団 <http://www.itc-zaidan.or.jp/ebook.html>」がかなりの数のデージー図書を作成しています。また、以前NL (web2012年6月12号)で紹介した「多言語絵本の会 RAINBOW」でも、マルチメディアデージー対応の多言語電子絵本を作成して、提供しています
(<http://www.normanet.ne.jp/services/download/daisy.html>)。関心をもたれた方は、是非各所にお問い合わせください。



ニュース記事から 2014.9.1~2015.3.1

- 2014/09/05 樺太等残留邦人 14 名が 6 日より 11 日間集団一時帰国／厚労省
- 2014/09/11 中国残留邦人二世を考えるシンポジウム開催／福岡市 ※1
- 2014/09/12 中国残留邦人 16 名が 16 日より 12 日間集団一時帰国／厚労省
- 2014/09/18 北朝鮮でも「残留日本人」調査／厚労省
- 2014/10/01 一橋大院生らの「『満洲の記憶』研究会」主催シンポジウム開催／東京
- 2014/10/03 厚労省主催「中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム」／横浜
- 2014/10/04 中国残留孤児の肉親調査、新たな認定者なく 2 年連続見送り／厚労省
- 2014/10/14 樺太等残留邦人 6 名が集団一時帰国 (10/15~25)／厚労省
- 2014/11/01 帰国二世、国支援の有無で日本語能力に大差、就労状況にも差 (大阪、兵庫等 6 府県を調査)／神戸
- 2014/11/05 満蒙開拓平和記念館、開館 1 年半で来館者 5 万人を突破／長野
- 2014/11/09 中国残留者の帰国支援に尽力の中島多鶴さん死去 ※2
- 2014/11/10 “チャイニーズドラゴン”リーダーら逮捕
- 2014/11/16 「残留孤児の父」山本慈昭さんの生涯を描いた映画「望郷の鐘」完成試写会／東京 中野
- 2014/12/03 中国残留邦人 10 名が集団一時帰国 (12/4~15)／厚労省
- 2014/12/08 中国残留邦人の墓碑建立 共同墓地で除幕式／山形
- 2015/03/01 中国残留帰国者ら、認知症の高齢者に対応 飯田にデイサービス開所／長野



※1 九州弁護士会連合会は 6 月、国の政策が残留邦人二世の人権を侵害しているとして安倍首相に勧告書を出したが、それに続き「中国残留帰国者の現在と問題点～尊厳ある共生社会を目指して」をテーマに 13 日にシンポジウム開催。(「同声・同気」web 版 8 月号参照)

※2 中島多鶴さんは、昭和 15 年に開拓団員として家族と旧満州に渡り、21 年に帰国。残留邦人の身元引受人になるなど帰国支援に力を入れた。「残留婦人の母」とも呼ばれ、長野県内外で満州の体験を語り継ぎ、満蒙開拓平和記念館の設立にも尽力した。享年 88 歳。

2014 年度スクーリング講師研修会報告：所沢センター

研修会テーマ：「これでいいの？ 私のスクーリング ー スクーリングの工夫や悩みをシェアしよう ー」



「遠隔学習課程（通信教育）」のスクーリング講師を対象とした研修会を平成 26 年度は、11 月 13 日、14 日の 2 日にわたって行い、36 名の参加を得ました。

1 日目は、まず概論として遠隔学習課程とスクーリング状況について、受講者の世代や滞日年数、全国のスクーリング実施状況、修了アンケートよりスクーリング受講者の声等を報告しました。その後、主に通信のコース別で 5～7 人の 6 グループに分かれ、参加講師が現在担当している個別の受講者のスクーリングについて、1 人ずつ順々に紹介をしてもらいながら、指導で工夫している点、対応に迷う点、今後の方針などに関する意見交換を約 140 分行いました。

2 日目は、個別の受講者の対応にとどまらず、スクーリング指導全般において意見交換をしたいこととして希望が出ていた事柄から、4 つのグループ（受講者へのアプローチ、自学自習の指導、受講者の学習ビリーフへの対応、指導中に出てくる相談への対応）に分かれ、8～10 人のグループで意見交換を約 70 分行いました。そ

の後、全体会で新コースである「日本語能力試験 N2 受験準備」コースの紹介や質疑応答などを経て、閉会しました。

自学自習が中心となる遠隔学習課程の学習を、月に 1 回 2 時間程度、側面からバックアップするというのがスクーリングです。受講者の状況に合う短期的/長期的な学習目標をどのように立てるのか、また、何から始めてどう進めるのかなど、スクーリング講師として悩みは尽きないというのが本当のところだろうと思います。その一方で、スクーリング講師同士が指導に関して気軽に話したり意見を尋ねたりする場も機会も少ないのが現状です。今回の研修会では、参加者一人一人が発表するスクーリング、受講者の状況について、グループの皆が耳を傾け、一緒に考えられたこと、そして複数の感じ方・見解に触れることができたことに意義があったと感じます。また、意見交換を通じて、いろいろな工夫や対応のアイディアを共有できたことも大きな収穫でした。



2015 年 (H27 年度) 上期「遠隔学習課程（通信教育）」募集要項完成！

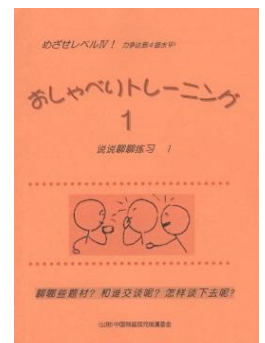
H27 年度上期の「募集要項」（中国帰国者向け）を帰国者、支援者の皆さんにお送りしました。今回お送りしました募集要項は、高齢帰国者にも見やすいように中国語のコース説明部分を大きい文字にし、巻末には世代別お薦めコースコーナーを設けました。より見やすく、自分にあったコースを探しやすいように工夫しました。コースの詳細や教材見本（音声もあり）を見てみたい方は、当センターの HP (<http://www.kikokusha-center.or.jp>) をご覧ください。

なお、遠隔学習課程で使用している当センター開発教材は、どなたでも購入することができます。ご興味のある方は、HP で教材内容をご確認の上、以下にご注文ください。

教材注文先：（公財）残留孤児援護基金 電話 03(3501)1050/FAX 03(3501)1026

★めざせレベルⅣ！おしゃべり話題コース★

今回ご紹介するのは、会話力アップを目指すためのコースです。皆さんの周囲に、「挨拶のあと、話がなかなか続かない」、「よくしゃべるけど、何言ってるかわかりにくい…」、そんな帰国者はいませんか。そういう方にお薦めなのが「おしゃべり話題コース」です。題名にある「めざせレベルⅣ」の「Ⅳ」というのは、センターが開発した「JSL コミュニケーション力水準」^{注1)}の上から二番目のレベル、“相手が



わかりやすく話してくれれば身近な話題や自分の興味のある話題で雑談・歓談をすることができる”を目指します。テキストでは、日本人同士の雑談で良く扱われるテーマを取り上げ、それぞれの会話例を、短いものから長いものまでたくさん紹介しています。CD を利用した聞き取り・発話練習も豊富です。おしゃべりの背景にある日本事情、おしゃべりを続けるためのコツなども紹介しており、コース修了者からも「実用的である」「読んでいて楽しい」等、好評です。また、中国語が母語の人が発音しにくい日本語の音を取り上げた発音講座もついています。職場の人や、近所の人や、学校で知り合った母同士などと、挨拶を超えたちょっとした雑談ができると、お互いの距離が少し近づきますね！そのきっかけになるコースです。



使用教材：『おしゃべりトレーニング1～5』（CD各1～2枚付）A5判

◆ 各分冊のテーマ：

- | | |
|--------------------|--------|
| 1：住んでいるところ／日常生活（1） | （152頁） |
| 2：日常生活（2）／仕事 | （212頁） |
| 3：出身地・故郷／趣味・嗜好 | （242頁） |
| 4：家族／外国語学習 | （218頁） |
| 5：中国と日本（異文化）／ニュース | （237頁） |

注1）詳細についてはセンターHP 参照

★日本語能力試験N2 受験準備コース★

「日本語能力試験」は、日本語のレベルを、最も易しいN5レベルから最も難しいレベルのN1まで、5段階に分けて測る試験です。N2以上の合格なら履歴書等にも書ける資格でもあります。このコースでは、中国帰国者等、「生活者」のために新しく作成したテキストを使います。「生活者」というのは、海外からの留学生等とは異なり、日本で働きながら、あるいは家事・育児をしながら、あるいは高齢で生涯学習の一環として、日本語を学ぶ人々です。「テストに慣れていない」という点が共通するでしょう。この教材では、「試験」に苦手意識がある人でも挑戦できるように、実際の試験と同形式の問題を解きながら、解法のコツや対策学習のポイントを学びます。中国語で丁寧に解説してあるので、自分のペースで進めることができます。受講生の多くが不慣れであると考えられる4択形式のマークシートによる回答方法も提出課題の中で練習します。修了時には実際の試験と同じ問題数の模擬テストで力試しができます。参考資料として、受験申込方法など実際に受験する際に最低限必要な情報も紹介しています。

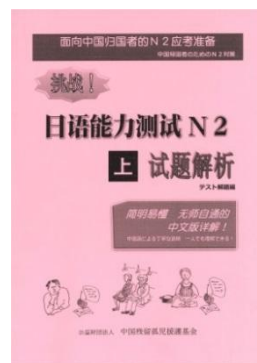
漢字、語彙、文法・読解、聴解などを総合的に学習できるので、日本語能力試験の受験予定がない人で、中上級の日本語を学びたいという方にもお薦めです。

使用教材：『挑戦！日本語能力試験N2—中国帰国者のためのN2対策—上・下』

CD付 A4判 〈上册〉「テスト解題編」（202頁）〈下册〉「問題練習編」（301頁）
付属のCDには、聴解テストの他、N2レベルの語彙や文法を聞いて覚える例文を収録

※当センターHPに教材のサンプルがあります。

<http://www.kikokusha-center.or.jp/tokorozawa/enkaku/jp/enkaku01.htm>



N2コース受講者から合格報告！

「先生方のお陰で日本語能力試験N2合格しました。合格できるとは夢にも思いませんでした。とても嬉しくてとても感謝しています。読解問題集は、本屋にあるものまで教えてくださって本当に助かりました。試験後いろいろ反省しております。（試験では）時間が足りなくて読解文は半分しか解答しないままで時間切れでした。悔しいと言うより自分自身の読書のスピードが遅いのが原因でした。もしコツがあれば、是非教えてください。次はN1に挑戦したいと思っています。（二世40代）」

